

【チェックリスト】 ついついやっていませんか？NG行動

お子さんの「英語の扉」を閉ざさないために、日常で避けたい関わり方です。

1. 厳しい発音チェック（RやLなど）

- NG：正しい発音ができるまで何度もやり直しをさせる。
- 影響：失敗を恐れて、自分から発言する意欲を失ってしまいます。
- OK：通じればOK！親も一緒に「カタカナ英語」で笑い合うくらいが丁度いいのです。

2. テストの点数だけで評価する

- NG：返ってきたテストの数字だけを見て、一喜一憂する。
- 影響：「点数のため」の勉強になり、本当の好奇心が枯れてしまいます。
- OK：学んでいる過程や、新しい言葉を知ろうとする姿勢を認めましょう。それが「自走する力」に繋がります。

3. 他の子や「理想」と比べる

- NG：「〇〇ちゃんはまだ話せるのに」と周囲と比較する。
- 影響：自己肯定感が下がり、英語が「劣等感の源」になってしまいます。
- OK：比べていいのは「昨日のわが子」だけ。一歩進んだら全力で拍手です。

4. 「ごほうび」で釣る学習

- NG：「100点取ったらゲームを買ってあげる」といった外的な報酬。
- 影響：学ぶ目的がすり替わり、ごほうびがないと動かない「大きな損害」を生みます。
- OK：英語そのものを「遊び」や「親子の時間」として楽しむことが最大の報酬です。

5. 気分が乗らない時の「無理強い」

- NG：疲れている時や嫌がっている時に無理やり勉強させる。
- 影響：「やらされたこと」は、驚くほど身につきません。むしろ嫌いになる原因に。
- OK：そんな時は「何もしない」のが最良の教育。そっとしておく「待つ勇氣」を持ちましょう。

6. 期待通りにいかない時にガッカリする

- NG：教えたことを忘れていた時に、ため息をついたり失望した顔を見せる。
- 影響：親の顔色をうかがうようになり、英語を「親を悲しませるもの」と感じます。
- OK：子供は台本通りには動きません。大人が臨機応変に、笑顔でスルーする余裕を持ちましょう。

大切なのは、教えることではなく「嫌いにさせない」こと。親御さんの笑顔が、お子さんの学びを最も加速させるガソリンになります。